



低脂肪 DDGS の供給が増加、バイヤーのレベル指定、交渉が必要に

米 国のエタノール工場がトウモロコシ油を抽出装置の設置を進めているため、飼料用併産物として生産される DDGS についても、低脂肪 DDGS の供給が増加し続け、輸出への供給も増えてきています。

油分抽出装置は非食品用トウモロコシ油をエタノール製造過程で取り除くもので、その油はバイオディーゼルや動物飼料として利用されます。しかし、この取り組みは DDGS の飼料としての性質や価値を買えてしまいませ

最近開催されたエクスポート・エクスチェンジ 2012 会議で、多くの海外バイヤーから、輸出品はどこで購入できるのかという質問を投げかけたことから、低脂肪 DDGS への関心が



高いことがわかりました。エクスポート・エクスチェンジ 2012 はアメリカ穀物協会と再生可能エネルギー協会の共催で行われました。

ネブラスカ州オマハにあるガビロン・ランディ・アイブス氏は「海外のバイヤーにタンパク質と脂肪を合わせた値を聞くように伝えてきた」と述べています。アイブス氏はアメリカ穀物協会の DDGS をはじめとする付加価値産物を検討する付加価値産物諮問委員会の委員長を務めています。

たとえば、これまではタンパク質と脂肪を合わせて 36% になる 36 プロファット DDGS を指標としていました。油分が取り除かれる前であれば、そのような DDGS にはタンパク質 26%、脂肪 10% それぞれ含まれていると期待することができました。しかし、低脂肪のものが増えてきた現在では、必ずしもそのような期待が当てはまらず、タンパク質 32%、脂肪はわずか 4% を意味するかもしれないことになります。

「このことから、タンパク質と脂肪に分けてそれぞれのレベルを指定することが重要なり、それをもとに、最終商品の微妙な違いについて輸出者とディスカウント率の取り決めていくこと

低脂肪 DDGS は輸出チャンネルにもより多く供給されるようになってきました。その外観はこれまでの DDGS と変わりません。海外のバイヤーは、タンパク質と脂肪のレベルを指定し、希望するスペックの DDGS を購入していただけるようお願いします。

今号の内容:

- 1 ページ: 低脂肪 DDGS の購入のために
- 2 ページ: エクスポート・エクスチェンジ 2012
- 3 ページ: 南米のトウモロコシ生産ポテンシャル

ができる」とアイブス氏は述べています。

2012 年末までに 65% 以上の米国エタノール工場（操業中と操業一時休止中を含む）がエタノール製造工程でトウモロコシ油抽出能力を持つようになります。

「従来から輸出向けのばら積みやコンテナ積みを行っている地域では、80% の工場が油分の抜き取りをするようになる。これは従来からの輸出チャンネルに出る DDGS の 8 割が低脂肪のものになり、2 割が高い脂肪含有率のものであることを意味する」とアイブス氏は語っています。

これらの数字がわかっても、購入する際の助けにはあまりなりません。アイブス氏によれば「最終的には、輸出者は異なる価格で市場にある様々な脂肪とタンパク質レベルの DDGS を取りそろえることができるので、バイヤーはそれらについて注文を出していく必要が生じる」とのことです。

海外のバイヤーは求めている最低限のスペック — たとえばタンパク質と脂肪 8% を提示することをお願いします。

4 ページの低脂肪 DDGS に続く

世界中の穀物バイヤーが新たなコンタクトを築き米国産穀物への理解を深める

ネソタ州ミネアポリスにて開催されたエクスポートエクスチェンジ 2012 (Export Exchange 2012) では、200 名以上の穀物バイヤーが 300 名以上の米国の輸出者や農業関連企業と交流を深め、米国産穀物の状況や DDGS の供給に関する疑問に答える機会を持つことができました。

もちろん世界から集まった多くのバイヤーの深い関心事項は、米国のかんばつや予測通りの低い米国産トウモロコシの生産量でしたが、会議に多くの米国輸出者が集まったことから、米国の市場がオープンであることを示すことができました。

インドネシアの大手飼料会社の一つである Japfa Comfeed の Arief Widjaja 氏はいくつかの米国の穀物と飼料原料供給者とのコンタクトをもとに商談を進めることができた以下のように語っています。

「アメリカ穀物協会は評判の良いサプライヤーを見つける手助けをしてくれた」と述べ、いくつかの新しいサプライヤー候補と会合することができたとのこと。

エクスポートエクスチェンジ会議とそれに向けて組織された視察団が、ネットワーク作りや穀物品質の情報、サプライチェーンの検討のためのとても貴重な場を提供してくれたと、マレーシアの Malayan Flour Mills のジ

ェネラルマネジャーである Kiat Hwa Chu 氏は述べています。

Chu 氏によれば、この会議と視察を通じて米国産の飼料製品の品質とその加工工程が理解できたことは、「調達戦略と意思決定プロセスにとっても役に立っている」とのことです。

Chu 氏の会社はマレーシアで二つの配合飼料工場と完全にインテグレートされた家禽生産、加工施設を一つ経営しています。

エクスポートエクスチェンジ会議では、いくつかの新たな供給元となる可能性のある会社と会うことができ、「私は 20 年事業をしてきたが、さらに新しいサプライヤーになる可能性のある企業、とりわけ東南アジアやマレーシアに拠点を持たない企業に出会い、長時間にわたって議論することができた」と Chu 氏は述べています。

Chu 氏は、アメリカ穀物協会が「米国産穀物に関する情報提供やその品質、さらに他産地との栄養価の比較についての詳細などについて、非常に重要な役割を担っている」と語っています。

二人の米国の農家から 2012/2013 年の作柄について直接説明があり、参加者は現状をよりよく理解することができました。イリノイ州の農家ロン・ゲーリーは、彼の農家がかんばつの中心地であり、単収は確かに期待したほどはなかったと参加者に説明しました。

その反対にあったのがミネソタ州の農家ジョン・メイジスで、生育期間中の良好な天候のおかげで記録的な単収を上げることができたことと聴衆に語りました。

参加していた海外のバイヤーやユーザーにとって、これらをはじめとする発表は米国の生産能力のスケールの大きさや強い回復力を象徴したものとなりました。歴史的なかんばつに見舞われても、2012 年の米国トウモロコシ生産は史上 8 番目の生産量になると見込まれています。

米国農務省のチーフエコノミスト、ジョー・グローバーによれば、米国での 2012 年生産の消失は世界の他の地域での増大によって相殺されているとのこと。さらに重要なのは、米国の作物保険プログラムによって、多くの米国生産者が来年の再復帰を図っていることであると述べました。

台湾の Charoen Pokphand Enterprises 社社長の Willis Cheng 博士は、アメリカ穀物協会主催の視察団の一人としてエクスポートエクスチェンジと米国農場視察に参加しました。

4 ページのエクスポート・エクスチェンジに続く



世界各地から集まった 200 人以上の穀物バイヤーと 300 の輸出者と農業関連企業がミネソタ州ミネアポリスで開催されたエクスポート・エクスチェンジ 2012 に参加しました。この会議はアメリカ穀物協会と再生可能エネルギー協会の主催で行われました。

ブラジル、アルゼンチンの良好なトウモロコシ作柄を期待

アルゼンチンの多雨とブラジルの乾燥による、それぞれの国でのトウモロコシの作柄への影響は、今後の成長期の天候が好ましければ、限定的なものになると考えられます。米国のトウモロコシ供給が厳しい中、世界の多くの輸入者が南米の豊作を、供給ギャップを埋め、価格を落ち着かせるものとして期待をしています。

アメリカ穀物協会の南米コンサルタントであるアルフレド・ナバーロによると、ブラジルでは、初期の天候が乾燥であったため、非常に早く作付されたリオグランデ・スル地方のトウモロコシに幾分のロスが見られるかもしれないが、全体の生産高への影響はないであろうということです。「天候条件はおおむね良好」で、典型的な中程度あるいは弱いエルニーニョ天候パターンであるとナバーロは述べています。米国農務省の予測では、ブラジルは2012-13年度に7千万トンのトウモロコシを生産し、約1,600万トンほどを世界に向けて輸出するとしています。

米国農務省では、2011-12年度には7,300万トンのトウモロコシがブラジルで生産、2,100万トンがその統計年度に輸出され、2010-11年度には5,740万トンの生産、840万トンの輸出であったとしています。

ブラジルでのやや遅れた大豆の作付は、二作目のトウモロコシと同時に進む作付面積にある程度の影響を及ぼした可能性があります。ナバーロによれば、生育期の短い大豆の採用と利用によって、その遅れは解消されるであろうとのことです。

ナバーロによれば、作付面積の減少が起こっても、技術改良によっておぎなわれるとし、3千万トンを超える肥料が夏作物のために販売されたとアナリストによって報告されています。最終的には、2013年夏作物としてのトウモロコシは2012年と同レベルか、やや多い生産高となり、単収は昨年と比較して平均9%以上高くなるとナバーロは述べています。

アルゼンチンでは、過剰な降雨によって播種が遅れ、トウモロコシの一部が冠水してしまいました。トウモロコシの作付面積は全体としては減るかもしれませんが、予想単収は高い位置にとどまっており、作付面積の減少を良好な作柄でカバーすることができると考えられます。米国農務省の統計では、アルゼンチンは2,800万トンのトウモロコシを生産するとしています。ナバーロによれば、それは到達可能レベルではあるが予測を確定するにはもう少し時間が必要であると述べています。米国農務省では、アルゼンチンからの輸出量は1,850万トンに達するとしています。

太平洋の海水温は軽度のエルニーニョを示しており、ナバーロに寄れば、これはアルゼンチンとブラジルのトウモロコシ生産地域の天候条件が好ましいものになることを意味するとしています。これは作付けの遅れが単収の増大によっておぎなわれるであろうとするもう一つの理由となっています。

しかし、業界のアナリストはアルゼンチンのトウモロコシ生産の数値は多雨によって下がり続けるであろうと見ています。シカゴのRCMアセットマネジメントのダグ・バーグマン氏は、アルゼンチンのおそらく「もう少し下がる」と11月19日にダウ・ジョーンズに対して述べています。

11月初旬には、アルゼンチントウモロコシ生産者協会(Maizar)の会長は、同国の生産量は2,600万トン~2,700万トンに下がるであろうと述べています。しかし、生産量が2割下がる可能性があるという見方もあります。

アルゼンチンの生産が米国農務省の予測通り2,800万トンに、あるいはそれより実際には少し下回る量であったとしても同国が2010-11年度に記録した最大生産量の2,400万トンを超える可能性は十分にあり、かんばつの年であった2011-12年の収穫量である2,100万トンより、はるかに多くなります。

米国の穀物トレーダーとアナリストは南米の作柄の展開に注目しています。イリノイ大学の農業経済学者ダレル・グッド氏は「供給サイドとしては、南米の作物の生育状況は、今後3か月間がもっとも重要になってくる」と述べています。

グッド氏によれば、天候条件は改善しており、アルゼンチンでのトウモロコシ生産ポテンシャルは短期的にはすでに下方修正されているが、穀物市場はアルゼンチン、ブラジル両国の非常に大きな生産量への期待を反映して推移していくであろうとのことです。◆

低脂肪 DDGS : 今後も増加 1 ページから

そのような指定をすることによって、異なるタンパク質と脂肪レベルの DDGS に関して交渉することになります。アイブス氏は例として「脂肪 6%、7%の場合の価格差は?と尋ねること」を挙げ、「低脂肪 DDGS を求めているバイヤーは希望するスペックを提示し、輸出者に市場にあるものを探させることが DDGS を得るために最善の方法である」と述べています。

ある意味では、DDGS のタンパク質と脂肪のレベルによる価格差はデリバリーによる価格形成と似ているとアイブス氏は述べ、「バイヤーがデリバリー期限について価格設定するのと同様に、DDGS のタンパク質と脂肪含量による価格設定をすることができる」としています。

一般的には、低脂肪 DDGS は、これまでの DDGS と比較してより高い粗タンパク質含量と高いアミノ酸含量を持っています。この高いアミノ酸プロファイルは豚や家禽のような単胃動物にとって有利である一方で、低脂肪 DDGS の低い脂肪含量のおかげで、乳牛に対してより多く給餌することができるようになります。

低脂肪 DDGS とこれまでの DDGS は外観は同じですが低脂肪 DDGS は、一般的にフローアビリティは改善しています。

低脂肪 DDGS の飼料価値の評価については、アメリカ穀物協会がサポートしているものも含む、多くの研究が現在行われており、それらの結果は得られ次第、公表していきます。◆

エクスポート・エクステンジ 2 ページから

作物保険プログラムは良いプログラムで、農家が次の年に向かって保護を受けるために機能しているに違いないと、彼は話しています。

「米国産トウモロコシを買う努力を続けている」と述べ、米国農業は、多くの農家が 3 世代、4 世代と続き、GPS 技術を採用することによって可能となった精密農業法など多様な技術を駆使している「非常に良いシステム」であるとしました。

「私たちは米国産トウモロコシを非常に深く信頼している」と Cheng 氏は述べました。

エクスポートエクステンジ会議とその前後に行われた視察に参加したが、その運営への努力に感謝していると述べています。◆